

松平家史料展示室 企画展

『地名は語る』

～ 歴史と災害～

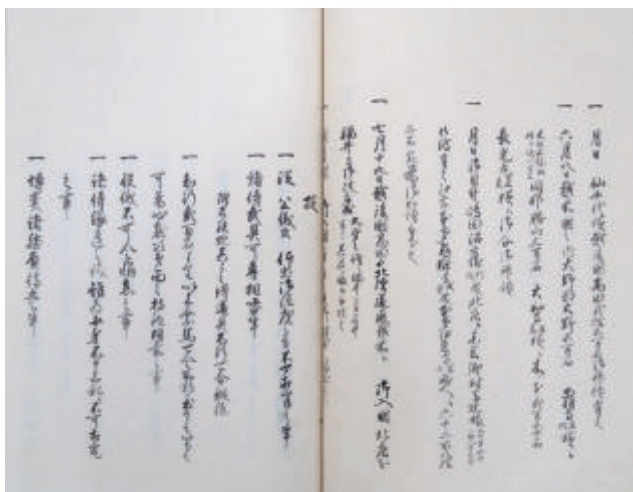
●主催 福井市立郷土歴史博物館
●会場 松平家史料展示室
●会期 令和4年6月9日(木)
～令和4年7月19日(火)

普段、何気なく見聞きしている地名ですが、なぜその名前が付いたのか不思議に思うことがあります。福井市内の事例をもとに、地名を歴史・人名・災害という視点で紹介します。

第1章 地名と歴史

地名には多くの歴史的な情報が含まれていることがあります。「福井」という地名を例にすると、この名称は寛永元年(1624)福井藩3代藩主松平忠昌^{ただまさ}の就任とともに付けられたとされ、それ以前は「北庄」と呼ばれていました。北庄は社庄^{やしろのしょう}(京都北野天満宮の庄園だった場所。現在の社北、足羽地区あたり)の北側にあるためそう呼ばれたともいわれています。「北庄」から「福井」への改称は、北庄の「北」が敗北の「北」につながり、不吉とされ行われたようです。その語源は、城の天守のそばにある井戸の名前である「福の井」にちなんでいます(諸説あり)。なお、大正14年(1925)に制定された福井市の紋章は、北庄の「北」という字と福の井の「井桁」の形を組合わせたもので、北庄と福井という過去と現在が見事に表現されています。

福井市内には、他にも城下町などにちなむ地名が多く残り、地域が刻んできた歴史が色濃く残るまちといえるでしょう。



家譜 忠昌公(越葵文庫、当館保管)
(北庄から福井への改称が記される)



福井城旧景「加賀口御門」(当館蔵)
(門にちなむ地名が現在も残る)

第2章 地名と人名

地名と人名は、非常に関係が深く、日本人の名字の7～8割は地名や地形に関係するといわれています。例えば、山、川、田、池、島、林、森などの字は多くの名字に使われています。また、土地の支配者が地名を名字にすることが武士の台頭とともに増えていきました。福井市内の地名を名字にした例では、林町の林氏(木曾義仲の家臣)、梅野町の梅野氏(朝倉氏の家臣)、前波町の前波氏(朝倉氏の家臣)、新開町の新開氏(朝倉氏の家臣)などの例があります。それらの地名もまた、地形や植生などによるものとなっています。



林町



前波町

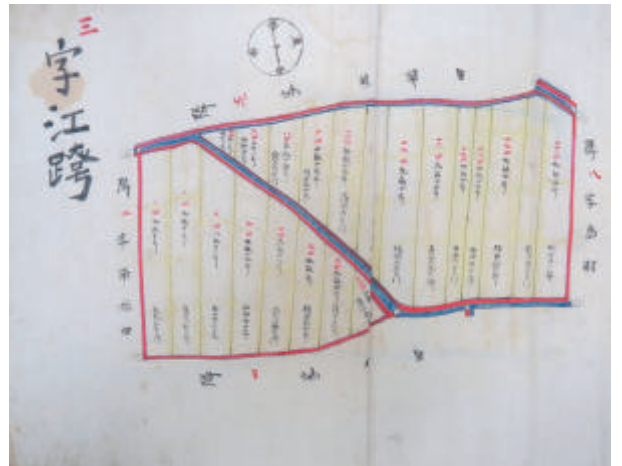
第3章 地名と災害

地名は、過去の災害を伝えていることがあり、今後起こりうる災害を想定できることがあります。福井市街地がある福井平野には九頭竜、足羽、日野の大河川が流れ、昔から水害に悩まされてきました。水害を想定させる例として、「水」を意味する漢字が使われる地名が、福井平野にはいくつかあります。漢和辞典で「江」という漢字の意味を調べると、部首が「さんずい」で、これ自体が「水」の意味を表す上、大きな川や水が陸に入り組む場所と書かれています。このことが示すように、この字がついた場所は川の近くにあることが多く、水害への備えが必要でしょう。

現在も使われている地名であれば災害との関連が想定できますが、改名されて過去の様子がうかがえなくなっている場合もありますので、古い地名や伝承を大事に守り伝えていくことは、災害予防の面でも非常に意義のあることといえるでしょう。



日野川略図（部分、当館蔵）
（現在に比べ、川筋が大きく蛇行している）



越前国吉田郡定政村絵図（当館蔵）
（「江」の字が使われた地名の例）

次回の展示

令和4年7月23日（土）～8月28日（日）

企画展示室 夏季特別陳列①「関東の名族 結城氏と福井」

松平家史料展示室 夏季特別陳列②「ボンボニエール～絆をつなぐ 銀の小箱～」

展示解説シート No.150

令和4年6月9日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1

電話 (0776) 21-0489 FAX (0776) 21-1489

担当 白嶋 祐司

印刷 (株)宮本印刷